

## きょうの紙面

館林麺1 グランプリ(2、3)  
 幼稚園でハロウィン(4)  
 四国遍路を疑似体験(8)

©上毛新聞社 2014年



## 梅田湖、ワカサギ本番

# 濃い魚影

# 初心者も釣果期待

## 桐生

桐生市の梅田湖でワカサギ釣りが解禁となり、大勢の釣り人でにぎわっている。2年前から新たなふ化方式を導入しているため魚影が濃く、ベテラン釣り師の中には500匹以上の釣果を上げる人もいる。ワカサギ釣りの本番は秋が深まるこれから。初心者でも簡単なのでチャレンジしてはいかがだろうか。

ワカサギ釣りを楽しむ釣り人  
 11日午前11時ごろ

## 新ふ化方式採用 3時間で276匹

漁場を管理する両毛漁業協同組合(中島淳志組合長)が導入したふ化方式は長野県の諏訪湖で開発されたもので、大きな筒型の装置で受精卵を管理し、ふ化した稚魚を湖に放流する。

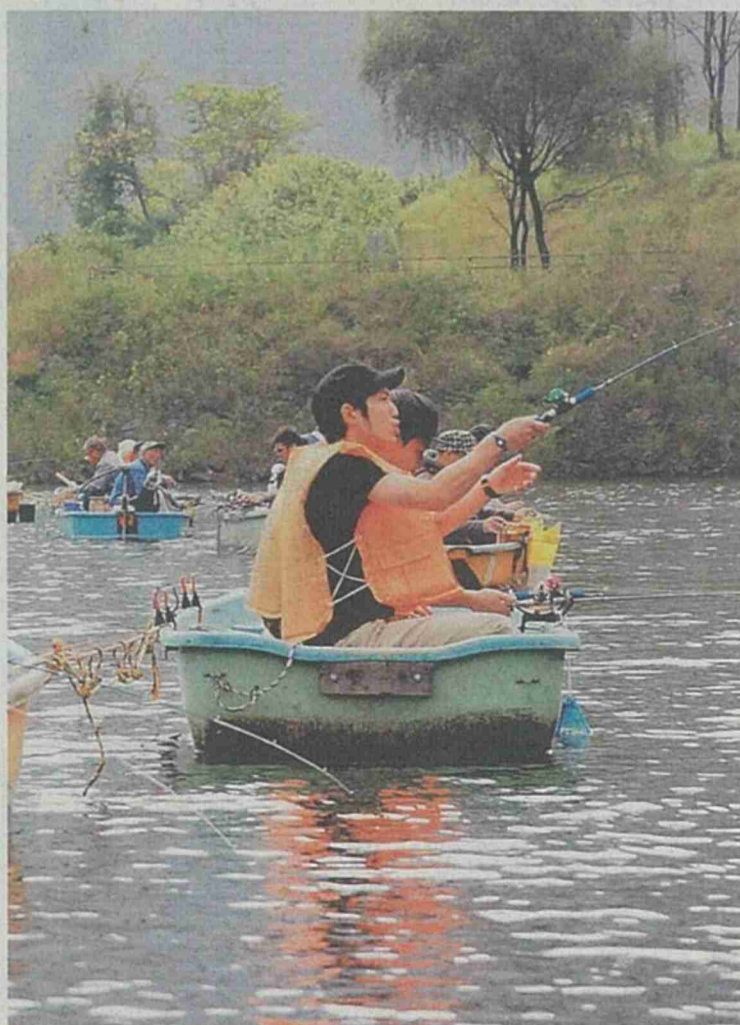
群馬県水産試験場の調査では、シュロの繊維に受精卵を付着させて湖に沈める従来の「シュロ枠方式」のふ化率が15%なのに対し、「諏訪湖方式」は91%。ふ化率が飛躍的に向上する上、手間と経費も大幅に削減できる。同漁協が9月5日に行った調査捕獲では、3時間で276匹が釣れたことから魚

影の濃さがうかがえる。梅田湖では週末になると多くの釣り人が訪れる。11日に会社の同僚3人とやって来た堀川翔平さん(25)は太田市細谷町。午前11時までに45匹を釣り上げた。ワカサギ釣りは初心者というが、「和気あいあいと楽しむため

にやって来た。同僚の中には初めての人もいる。これから頑張って3桁を目指したい」と話した。ボートを管理している安蔵良治さんによると、解禁から1週間の釣果は平均200〜300匹。「中層の魚は通過するだけなので、底から5〜10センチくらいを狙うといい。ワカサギは回遊しているの

## 来月9日に大会

両毛漁業協同組合は11月9日、「第1回梅田湖ワカサギ釣り大会」を開く。出船は午前7時で、正午までの総匹数で順位を競う。参加費は大人千円、中学生以下500円。参加費とは別に遊漁料金(日釣券1500円、年券7320円)とボートレンタル料金(1日2500円)がかかる。予約順で募集定員は60隻。7日正午までに同漁協(80277・32・1459)へ申し込む。



釣り客でにぎわう梅田湖